

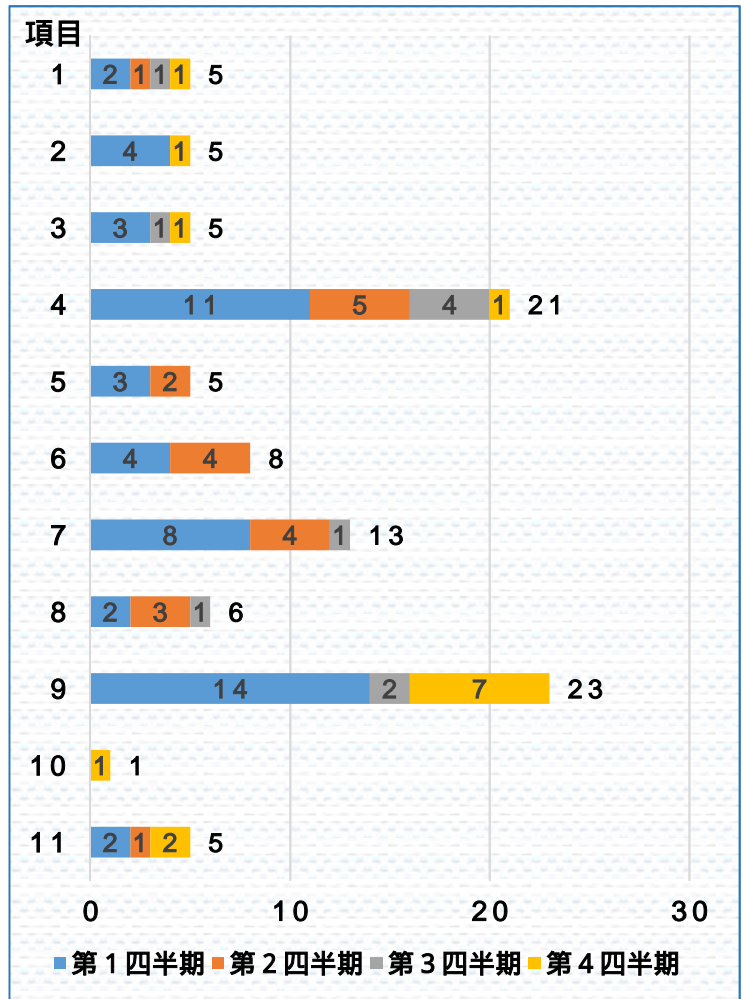
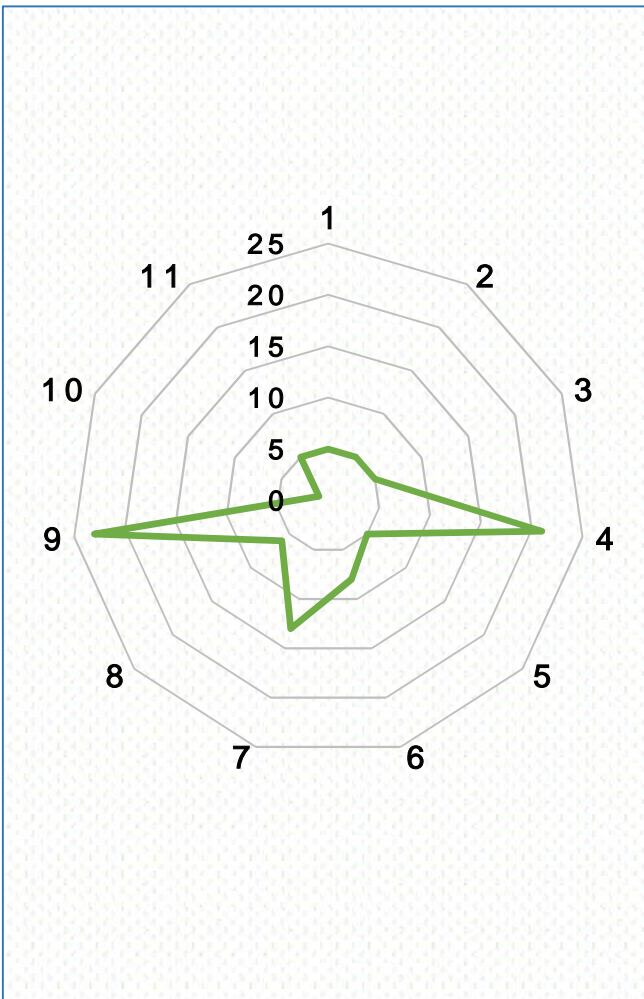
転倒災害の再発防止のための自主点検結果

項目	原因（複数回答可）	回答数
1	身の回りの整理・整頓を行っていなかった。通路、階段、出口に物を放置していた。	5
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていなかった。	5
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていなかった。	5
4	転倒を予防するための教育を行っていなかった。	21
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性を有し、かつサイズにあったものを着用していなかった。	5
6	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していなかった。	8
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていなかった。	13
8	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていなかった。	6
9	通路、駐車場等の除雪・融雪が不十分であった。	23
10	その他	1
11	未回答	5

出典：転倒災害の再発防止のための自主点検等報告書（令和3年4月1日～令和4年3月31日受理分）

回答結果（令和3年度統計）

回答結果（各四半期別）



令和3年の転倒災害に関する自主点検結果では、以下の3点に多くの問題があったと考えられます。

- ・ 通路、駐車場等の除雪・融雪が不十分であった。 [25.3%]
- ・ 転倒を予防するための教育を行っていなかった。 [23.1%]
- ・ 段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていなかった。 [14.3%]

皆さんはどんな対策をしていますか？

盛岡労働基準監督署では、以下の対策を推奨します。

1 「見える化」の推進 危険マップの作成・周知

事務室・工場・駐車場など職場内の「すべりそうな所」「つまづく可能性がありそうな所」「ぶつかる可能性がありそうな所」など、ヒヤリ・ハット事例を含み危険な箇所の拾い出し（リスクの拾い出し）を行い、「危険マップ」を作成し、全社員に周知しましょう。

要注意箇所…鉄板、グレーチング、塗装面、水、油、コーナー部、階段、段差部、冬場の凍結 etc

より多くの人を通る場所はリスクが高いため、滑り止め、手すり、色分け、ミラー設置など、改善策について、リスクアセスメントの手法により、優先的に取り組むとよいでしょう。

駐車場や玄関先は転倒が多い場所です。 雪・凍結対策を十分に行いましょう！

除雪機の購入等により作業効率が向上した場合は「働き方改革推進支援助成金（労働時間短縮・年休促進支援コース）」が活用できることもあります。岩手労働局 雇用環境・均等室（019-604-3010）にご相談を。

【転倒防止対策の事例】できそうなものを取り入れてみませんか？

ヒヤリ・ハット箇所を写真に撮り、コメントを入れて掲示し、注意喚起している。

工場内の見取図に、ヒヤリ・ハット箇所の シールを付けさせ、 の多い箇所に対して定期的に「リスクアセスメント」を実施している。

4S活動を導入し、通路にラインを引き整理整頓を徹底、つまづき防止を継続している。
階段に「手すり」を取付け、手すりの使用を徹底させている。

油で滑りにくい履物を選ぶよう、指導している。

ドアの開閉範囲に色を付け、注意喚起を行っている。

廊下のコーナー部等にはミラーを設置し、ぶつからないように配慮している。

水を使う職場なので、防滑塗装を施し、防滑靴を使用している。

段差でつまづく人が多いので、蛍光塗料を塗って目立ちやすくした。

玄関に凍結防止用にマットを敷いている。

2 転倒災害の研修

岩手労働局
盛岡労働基準監督署 転倒予防



厚生労働省
「STOP! 転倒災害」



厚生労働省
「職場のあんぜんサイト」

